



[瀬戸内海国立公園]
家島諸島
(姫路市)

基本戦略Ⅰ 豊かな自然環境の適切な保全

1 地域に根ざした生態系保全活動の推進

生物多様性の保全は、あらゆる主体が連携・協力しながら進めることが大切です。地域団体、企業、学校、自治体など多様な主体による地域に根ざした保全活動が継続して取り組めるよう支援します。

主 な 施 策

ひょうごの生物多様性保全プロジェクトの推進

- 地域で取り組む生物多様性保全活動のうち、特にモデルとなる先導的な活動を県が「ひょうごの生物多様性保全プロジェクト」*として選定し、「生物多様性ひょうご基金」による助成のほか、活動発表会を通じた取組内容の情報発信、地域団体同士のネットワーク化等を推進します。（2024年度現在:108件）

*「ひょうごの生物多様性保全プロジェクト」👉 資料編79頁

西宮市立山口中学校モリアオガエル保存会
（モリアオガエルの保全活動）



生物多様性アドバイザーによる専門相談対応

- 自然環境や動植物、生態系等に精通した専門家、学識者等を「生物多様性アドバイザー」として登録し、行政や企業・地域団体等からの環境保全活動などに関する相談に対して、専門的知見に基づき必要な助言や情報提供を行います。（2024年度現在:34人）

生物多様性アドバイザーによる
河川での生態系の説明



上山高原エコミュージアムにおける自然再生活動

- イヌワシ*など貴重な野生動植物が生息・生育する上山高原において、地域住民から成るNPOや新温泉町、県などで構成する上山高原エコミュージアム*運営協議会がススキ草原やブナ林の復元等の自然再生に地域一体となって取り組みます。

*「イヌワシ」👉 資料編79頁

*「上山高原エコミュージアム」

👉 資料編80頁

上山高原自然復元作業



環境省の認定制度「自然共生サイト」の推進

- 本県には多様な主体によって豊かな自然環境が守られている地域が多く存在します。環境省の認定制度「自然共生サイト」への登録に向けて、企業や地域団体などへの普及啓発や生態系調査のための専門家の紹介などの支援を進めます。（次頁コラム参照）

自然共生サイトの認定を受けた
「海岸生物の王国“相生湾”」





コラム 30by30の実現に向けて～自然共生サイトの推進～



30by30

30by30ロゴマーク

国内外の研究報告

- ◇ 世界の陸生哺乳類種の多くを守るために、既存の保護地域を総面積を30%以上拡大していくことが必要
- ◇ 保護地域を30%まで効果的に拡大すると、生物の絶滅リスクが3割減少する見込み

日本の現状(2023年)

陸域：約20.8%
海域：約13.3%

法律等に基づく国立公園等の保護地域に加えて、企業有林や里山などの保護地域以外の生物多様性保全に貢献している場所(OECM)を推進する必要

環境省の認定制度「自然共生サイト」について

- 30by30を実現するための施策＝OECM (Other Effective area-based Conservation Measures：法令による保護地域以外で生物多様性保全に資する地域)
- 企業や自治体、各種団体など、各主体の取組によって生物多様性の保全が図られている区域を「自然共生サイト」として環境省が認定する制度。認定地域の中で保護地域内のものを除き、OECMとして国際データベースに登録し、30by30の達成をめざすもの。

兵庫県の認定状況(2024. 9現在) 2023年度：12件、2024年度(前期)：2件、計14件（全国認定件数253件）

	自然共生サイト名	認定団体等名	所在地
1	コウノトリ育む中筋の里地里山	豊岡市	豊岡市
2	コウノトリ育む祥雲寺水田とビオトープ	兵庫県立大学大学院地域資源マネジメント研究科・農事組合法人コウノトリの郷営農組合	豊岡市
3	サントリー天然水の森 ひょうご西脇門柳山	サントリーホールディングス株式会社	西脇市
4	細尾の棚田、池沼植物群落	今住悦昌	宝塚市
5	エスパックバンビの里	エスパック株式会社	神戸市北区
6	竹中研修所 清和台の森	株式会社竹中工務店	川西市
7	ブランチ神戸学園都市 チガヤ群落	大和リース株式会社	神戸市西区
8	神戸の里山林・棚田・ため池	神戸市	神戸市北区
9	県立尼崎の森中央緑地	兵庫県	尼崎市
10	アース製薬株式会社 坂越工場 (アース坂越の森)	アース製薬株式会社	赤穂市
11	海岸生物の王国“相生湾”	相生市・相生湾自然再生学習会議・あいおいカニカニブラザーズ	相生市
12	県立あわじ石の寝屋緑地	兵庫県	淡路市
13	グリーンバッテリーフォレスト加西	プライムプラネットエナジー & ソリューションズ株式会社	加西市
14	ユニトピアささやま 里山再生エリア	パナソニックグループ労働組合連合会	丹波篠山市



各サイトとも、地域の保全活動団体や大学、研究機関、行政等多くの主体が緊密に連携して様々な取組が行われている。



コラム

ひょうごの生物多様性保全プロジェクト活動事例

相生湾自然再生学習会議 (相生市)



シバナの苗の移植

- 播磨灘・相生湾を「カブトガニ」がいた頃の豊かな里海に蘇らせるため、地元小・中・高校と連携して、海岸や干潟の生物調査や那波港の底質浄化、藻場「アマモ場」の創出などに取り組んでいます。
- 相生市の中に自生する「シバナ」の保全のため、地元小学校の総合学習の時間で、児童が育てた苗を干潟へ移植するとともに、中学生、高校生なども参加し、養浜活動に連携して取り組み、環境問題に関心を持ってもらうなど、播磨灘・相生湾を里海に蘇らせる活動を次世代に繋げるよう努めています。

高雄地区水辺づくり協議会 (赤穂市)



ハマウツボとカワラヨモギ

- 各自治会、高雄小学校、同校PTAが活動主体となり、長年にわたり、希少植物ハマウツボの保護活動や、ハマウツボの宿主となるカワラヨモギの生育環境の改善を図るなど、千種川河川敷の自然環境の保全に取り組んでいます。
- 地域と緊密に連携して高雄小学校での環境学習にも取り組んでいます。子どもたちが地域住民などと交流しながら調査統計の方法や発表資料づくりのノウハウを学ぶとともに、地域の環境を大切に思い、故郷を愛する心が育つよう努めています。

丹波地域のホトケドジョウを守る会 (丹波市)



県内では丹波地域のみに生息するホトケドジョウ

- 兵庫県版レッドリストでAランクに指定されている希少淡水魚のホトケドジョウは、近年、全国的にも生息環境が失われつつあり、本県では丹波地域にしか生息が確認されていません。
- このため、地域住民を中心に同会が結成され、ホトケドジョウの継続的な野外調査活動や生息環境の改善、小学校での飼育指導や観察会などの環境学習などの普及啓発に取り組んでいます。特に、6カ所ある生息地の生息数や水質の調査は、会の発足以降、毎月1回の頻度で地道に続けられています。



コラム

100年以上かけて再生された六甲山地

- 古来、六甲山地はシイやカシなどの照葉樹林を中心に豊かな森を形成していました。しかしながら、江戸時代から明治初期にかけて人口が増える中、薪などの確保のために多くの樹木が切り出されました。その結果、明治初期には白い岩肌ばかりの見える荒れ果てた山となり、頻発する土砂災害など治山上の課題も抱える状態になりました。このため、明治後半から、行政において緑を取り戻すための大規模な植林事業が始まり、その後、**100年以上の歳月をかけて現在の緑あふれる山の姿**となりました。今では四季折々の草花や貴重な生き物が息づく生態系を形成しています。そして、現在も、この豊かな緑の森を守るため、行政や地域住民などと連携した植樹・保全活動が続けられています。



明治期の六甲山地



現在の六甲山地



地域住民による植樹活動



コラム

尼崎の森中央緑地 100年の森づくり

- 県では、国道43号以南の尼崎臨海地域約1,000haを100年かけて魅力と活力あるまちに再生するプロジェクト「尼崎21世紀の森構想」の実現に向け、尼崎臨海部のかつて製鉄所などの工場があった約30haの埋立地に「**尼崎の森中央緑地**」を2006年に開園、生物多様性豊かな森づくりを進めています。
- 植物がほとんど見られない工場跡地において**ゼロからスタートした森づくり**で、市民団体や地元企業などと協力して、六甲山系等の地域の在来種から種を採取して育てた苗木で植樹活動を行うという全国的にも珍しい先進的な取組を実施。森づくり開始から18年間で135種、約10万本の苗木を植栽、様々な鳥類や昆虫類の生息にもつながっており、環境学習や自然観察などの自然体験ができる貴重な場所となっています。

はじまりの森
(緑地で初めて植樹を行った場所)



植樹直後(2006年)



18年後(2024年)



地域住民による植樹活動

2 希少野生動植物の生息・生育環境の保全

本県の多様で複雑な地形・気候は、独自の生態系や自然環境を生み出し、その土地・地域特有の在来種や貴重な希少種が育まれてきました。こうした地域が適切に保全されるよう、法令に基づく保護区域となる国立・国定公園、県立自然公園、鳥獣保護区などへの一定の規制や管理などの対策を進めます。

主 な 施 策

兵庫県版レッドリストの選定及び普及啓発

- 「兵庫県版レッドリスト*」は、専門家による協議のもと、最新の情報に基づき、18の分類ごとに絶滅のおそれのある野生生物などを概ね10年ごと順次改訂しています。この改訂を通じて、県内の生物多様性の現状を把握し、環境影響評価(環境アセスメント)や市町などが地域戦略を策定する際の基礎資料として整備するとともに、在来種や希少種の保護に向けて普及啓発を図ります。

*「兵庫県版レッドリスト」👉 資料編78頁



アベサンショウウオ(両生類Aランク)



ハマボウ(植物Aランク)

- 県では、一般社団法人兵庫県自然保護協会とともに、日本固有種のおオサンショウウオをはじめとした在来種や希少種の保全に取り組めます。

但馬イヌワシ・エイドプロジェクトの推進

- 天然記念物であり、兵庫県版レッドリストAランクのイヌワシ*のペアは、但馬地域に2組しか確認されていません(2024年現在)。
- 上山高原エコミュージアム*運営協議会では、餌場の確保に向け、シカ柵の設置によるイヌワシの餌となるノウサギが食する下草の保全や灌木林の伐採による狩り場の創出、ふるさと納税寄附金を活用した保全(ササ原の手刈り等)等に取り組み、生息環境の改善を進めます。

*「イヌワシ」👉 資料編79頁／「上山高原エコミュージアム」👉 資料編80頁

自然環境保全のための区域指定

● 自然公園、自然環境保全地域などの指定

県内には、2つの国立公園、1つの国定公園、11の県立自然公園*があり、面積の合計は約166ヘクタールと県土の約20%を占めています。国定公園及び県立自然公園での工作物の新築等にあたっては、特別保護地区・特別地域においては許可、普通地域においては届出の審査により、風致景観の保護を図ります。また、自然環境保全地域など*の指定により、一定の行為については許可または届出を義務づけ、その保全を図ります。

● 鳥獣保護区の指定

野生鳥獣の保護繁殖を図るため、県が定める「鳥獣保護管理事業計画」に基づき、鳥獣保護区*の指定に加え、特に鳥獣の保護繁殖上重要な区域は特別保護地区を指定します。また、3年以内の期間を定めて休猟区を設定するほか、銃猟による人身事故を防ぐため、特定猟具使用禁止区域(銃器)を指定します。

*「自然公園」「自然環境保全地域など」👉 資料編80頁

*「鳥獣保護区」👉 資料編81頁



イヌワシ

(参考) 地域における保全活動の取組事例

神戸

六甲山の魅力発信

- 六甲山ビジターセンターでは、六甲山の豊かな自然を活かした体験型の環境学習や自然観察会などの開催や自然保全活動団体への支援、六甲山の魅力を伝えるボランティア養成などを行っています。また、六甲山随一の草原が広がる東お多福山でのススキ草原の保全に取り組む地域団体などと連携して六甲山における生物多様性の重要性や季節ごとの多彩な魅力を発信しています。



東お多福山でのハイキングイベント



山の案内人の会による六甲山の
花のガイド

阪神 北

丸山湿原エコミュージアム

- 丸山湿原は、宝塚市北部に位置する県内最大規模の湿原群で、ハッチョウトンボやサギソウなど貴重な動植物が多数生息・生育しています。丸山湿原群を地域の貴重な資産としての保全・活用を図るため、多様な主体から成る「丸山湿原エコミュージアム推進協議会」をはじめ地域の活動団体などが湿原の保管理活動や水質・植生調査、自然観察会など地域ぐるみで展開しています。



湿原保全のための雑木伐採作業



地元小学校児童の環境学習

阪神 南

尼崎21世紀の森構想

- 尼崎臨海地域(約1,000ha)において、人々の暮らしにゆとりと潤いをもたらす水と緑豊かな自然環境を創出し、自然と人が共生する環境共生型のまちづくりを目指す「尼崎21世紀の森構想」を展開しています。市民、企業、各種団体、学識者、行政からなる協議会により、森づくりの方向性や方策等協議を進め、あらゆる主体の参画・協働を通じてまちの緑化などの森づくりに取り組んでいます。



尼崎臨海地域



尼崎の森中央緑地での植樹の様子

東 播磨

いなみ野ため池ミュージアム

- 東播磨地域の個性豊かなため池群や水路網には、貴重な水辺環境が形成されています。その保全に向けて、ため池管理者・地域住民・団体・事業者・行政など多様な主体が「いなみ野ため池ミュージアム」に参画して、ため池を核とする生態系の保全活動や環境学習をはじめ、魅力あふれる地域づくりに向けた取組を推進しています。



アサガまつり
(稲美町 天満大池)



オニバス観察会
(明石市 西島新池)

(参考) 地域における保全活動の取組事例

北播磨

網引（あびき）湿原の再生

- 加西市南東部に位置する網引湿原は、手つかずの状態であったものを地元の「あびき湿原保存会」などが保全・再生に取り組み、今では県内最大級の湧水湿原となっています。トキソウやサギソウなど特有の植生のほかヒメヒカゲやハツチョウトンボなど希少な昆虫も見られる希有な湿原です。加西市の野生生物保護区の指定も受け、地域一体となって貴重な湿原の生態系を守っています。



ボランティアによる保全活動



地元小学生への環境学習

西播磨

恵み豊かな清流千種川の復活

- 千種川は2009年の台風被害復旧に伴う大規模河川改修により、治水安全度は大幅に向上した一方で、生態系や内水面漁業上の課題が生じています。そこで、県では、かつての千種川の復活をめざして地域団体などと連携して、段差解消などによる魚類等の生息域拡大や連続性の確保に向けて「小さな自然再生」の手法を取り入れながら、多様な生物が息づく河川環境の創出を進めています。



千種川県域清流づくり委員会
(千種川中流ビオトープ体験)



魚類の生息場に適した環境(寄川や瀬・淵)を創出するバープエ*
*河岸から上流側に向けて構造物を設置する水制工法

中播磨

砥峰高原におけるススキ草原の保全・再生

- 神河町の砥峰高原は、約90haに及ぶ西日本有数のススキ草原であり、また湿地植物群落が隣接して分布し、多くの草党性昆虫類や植物が生息・生育しています。貴重なススキ草原の保全・再生に向け、地域団体などを中心に、木道の整備やススキの生育調査を実施するほか、山焼き*や観月会、ススキまつりなど自然とふれあうイベントなどを実施しています。



ススキ草原(砥峰高原)



山焼き*の様子

*「山焼き」(野焼き) 📄 資料編81頁

但馬

コウノトリの野生復帰に向けた取組

- 県立コウノトリの郷公園を中心に地域一体となってコウノトリと人が共生できる環境づくりを進めています。野生復帰に向けた調査研究はもとより、湿地の整備や水田ビオトープ・魚道の設置などの生息地の保全や環境学習などに取り組むほか、コウノトリの餌となる多くの生き物を育みながら、農薬や化学肥料にできるだけ頼らない「コウノトリ育む農法」も実践しています。



コウノトリ野生復帰PR動画



コウノトリ育む農法
(第11回コウノトリ写真コンクール最優秀作品)

(参考) 地域における保全活動の取組事例

丹波

丹波地域環境パートナーシップ会議

- 丹波地域は、多紀連山をはじめとする山々や由良川の源流など豊かな自然環境に恵まれており、これらの自然を保全・再生し、次代に引き継いでいくため、住民団体と市・県など行政機関等がそれぞれの活動内容や状況について情報を共有し、連携を深めていく「丹波地域環境パートナーシップ会議」を運営しています。



丹波の貴重な生物・植物
(設立10周年記念誌表紙)



丹波地域における水生生物調査

淡路

あわじ菜の花エコプロジェクト

- 島内の休耕田などで菜の花を栽培し、観光資源や環境学習で活用するとともに、採取したナタネ油を特産物として販売、家庭で利用するなど地産地消を推進する一方、家庭の廃食用油を回収したバイオディーゼル燃料に再生利用やナタネ油の製造時に発生する絞りかすを飼料や肥料に利用する「あわじ菜の花エコプロジェクト」を実践し、地域での資源循環の構築を進めています。



洲本大野地区菜の花部会
(大野菜の花迷路)



菜の花で作ったナタネ油



コラム

コウノトリの野生復帰とラムサール条約湿地登録

- コウノトリの野生復帰の取組と豊かな自然が評価され、2012年のラムサール条約(正式名称:特に水鳥の生息地として国際的に重要な湿地に関する国際条約)第11回締約国会議において、「円山川下流域・周辺水田」が条約湿地として登録されました。
- コウノトリが繁殖する人工湿地「ハチゴロウの戸島湿地」など様々なタイプの湿地が形成されるとともに、「コウノトリ育む農法」などの取組により多くの希少動植物の多様性が保たれていることが高く評価されたものです。
- コウノトリの野外生息数の増加を受け、コウノトリの採餌及び繁殖の場として継続的に利用されている区域も保全するため、2018年に条約登録エリアを拡張、総面積は1,094haとなっています。
- 地元では、ラムサール湿地の自然再生を進めるため、高校生による生物調査、保全活動も実施しており、ラムサール湿地の理解、高校間の交流を深めています。



高校生による保全活動



高校生による調査活動

1 特定外来生物の早期発見・早期防除

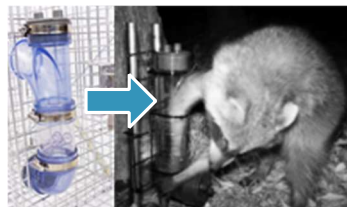
「早期発見・早期防除」の方針のもと、市町や土地所有者・施設管理者・農業者・企業など地域の各主体と連携して、特定外来生物*の侵入・定着を防ぎ、生態系の保全・人的被害の発生阻止・農林水産業被害の防止などの防除対策に取り組めます。

主 な 施 策

*「特定外来生物」 📖 資料編79頁

アライグマ・ヌートリア対策

- 市町の捕獲やわなの購入経費等に対して必要経費の一部を助成するほか、森林動物研究センターによる電気柵・専用わなの開発・普及や農業ハウスでの実証試験、データ分析、講習会の開催などを通じて捕獲強化を図ります。



農園での現地研修
(左)
筒形トリガーに前肢を入れエサをとろうとしているアライグマ(右)

ナガエツルノゲイトウなどの外来植物対策

- 県環境部・農林水産部・土木部が連携して防除対策会議を設置するとともに、特に繁茂が著しく、広域的な対応が必要な地域には地域部会を設置し、抜本的な対策を図ります。
- 分布調査の実施、防除実施計画の策定
- 農業者等への相談対応や支援、農業水利施設や県管理河川への防除対応
- 防除手法の実証・確立(遮光シートの設置による光合成阻止等)、防除後のモニタリング
- 人材育成や県民への普及啓発



防除技術講習会

特定外来生物全般の総合的な対策

- アカミミガメ、ブルーギルをはじめとした特定外来生物について、多様な主体と連携して必要な防除対策に取り組めます。

外来昆虫対策

● クビアカツヤカミキリ・ツヤハダゴマダラカミキリ対策

- PCR検査による同定調査や専門家・市町等と連携した分布調査の実施
- 被害木への防除ネットの巻き付けや薬剤の注入、被害が深刻な場合は伐採の上、粉碎・焼却処分
- 防除対策をまとめた県の防除マニュアルをもとにした技術講習会の開催など



薬剤による防除
(左)
防除ネットの巻き付け(右)

● アルゼンチンアリ対策

- 分布調査により防除範囲を確定し、市町と連携して防除対策を検討
- ベイト剤(毒餌)などの薬剤による駆除、その後のモニタリング
- 家屋侵入防止に向けた住民向け講習会開催など



モニタリング調査
(左)
市町職員対象の講習会(右)

● ヒアリ対策 ※ 国内に定着していないヒアリは、国が防除

- 早期発見に努め、国が実施する分布調査・駆除などの防除対策に国と協力・連携して取り組めます。



コラム

脅威の繁殖力「ナガエツルノゲイトウ」

- 同植物は、南米原産の多年草で、凄まじい繁殖力・再生力・拡散力を持つ水草の一種です。大量に発生すると、田畑では作物の生育不良が生じたり、排水溝や農業用水路を詰まらせるなど水流を阻害する、ため池などの水面を覆い尽くすため、水質の悪化や在来種の生息環境を奪うといった被害を生じさせることから、環境省の「特定外来生物」に指定されています。
- この植物のやっかいな点は、一度侵入してしまうと、その除去作業と保全に多額の費用と労力がかかる点にあります。全国的にも効率的で効果的な駆除方法が確立しておらず、対策に苦慮している現状にあります。
- 本県でも、県の中南部を中心に分布が確認されており、現在、県では、環境部・農林水産部・土木部による防除対策会議を設置して、優先度や緊急度を踏まえた抜本的対策に注力して取り組んでいます。

【閉鎖性の高い比較的小規模なため池での防除対策の事例】

洲本市五色町の本田池では、令和2年頃に侵入、水面をマット状に覆うほど繁殖していましたが、専門家の指導のもとに行政、地元管理者など関係機関が連携して約3年かけて防除に取り組んだ結果、現在はかなり生育が抑えられています。それでも、根絶には至っておらず、日頃からの見回り・点検や防除資材のメンテナンスなどを行うことで低密度管理を図っています。



防除前(2021)



防除作業



防除後(2024)



コラム

高校生による特定外来生物防除の取組

県立明石北高等学校《クビアカツヤカミキリの防除活動》

- 明石北高校の生物部では、生息域の拡大を抑えるための分布調査を継続して行っています。
- 同カミキリは幼虫が桜やモモなどの木の内部を食い荒らし、農業被害や倒木などの被害を発生させますが、学校の周辺には公園や桜並木も多いため、県・明石市や専門家などと連携して分布調査にあたるほか、企業と連携してGISを用いた桜のデジタルマップの作成に取り組んでいます。
- 危険な生態を知ってもらうため、生徒自らが近隣小学校への出前授業を行うなど普及啓発にも一役買っています。



小学校への出前授業

県立篠山東雲高等学校《ウシガエルなどの駆除活動》

- 篠山城堀の環境を守るため、篠山東雲高校の自然科学部では、ウシガエルなど特定外来生物の駆除活動を行っています。
- 駆除活動は、堀のそばに暮らす住民からウシガエルの鳴き声による騒音被害を聞き付けたことから始まりました。
- ウシガエルのほか、同じく特定外来生物のアメリカザリガニやブルーギルなども捕獲し、在来種の復活に寄与しています。また、駆除された外来生物を肥料や食材として活用する研究にも取り組んでいます。



篠山城堀での外来種捕獲活動

2 侵略的外来種に対する適切な対応

外来種の中には、「特定外来生物」以外にも、生態系等を脅かすおそれのある「侵略的外来種」がいます。生態系等への被害防止に向けて「入れない」「捨てない」「拡げない」の3原則のもとに、外来種への正しい理解促進及び注意喚起に努めるなどにより生態系等の保全を図ります。

生態系への影響

在来種を捕食、在来種の生息・生育環境を奪う等の競合が生じる。

人の生命・身体への影響

咬まれる、刺される、病原菌等を媒介する危険がある。

農林水産業への影響

田畑を荒らしたり、農林水産物を食害する。

■ 外来種被害防止3原則

- 「入れない」・・・生態系等への悪影響を及ぼすおそれのある外来種を「**入れない（持ち込まない）**」
- 「捨てない」・・・すでに飼っている外来種がいる場合は、野外に出さないために絶対に「**捨てない**」
- 「拡げない」・・・外で外来種が繁殖してしまっている場合には、それ以上「**拡げない**」

主 な 施 策

兵庫県版ブラックリストの選定及び注意喚起

- 県内の生態系等に悪影響を及ぼす(または及ぼすおそれのある)侵略的外来種を「兵庫県版ブラックリスト」*として選定し、県民や事業者、行政関係者等へ情報提供することにより、外来種への理解促進及び注意喚起を図ります。



(例) ホテイアオイ
(要注意外来生物)

水面を覆いつくし光を遮り、在来の水生植物の生存を脅かすおそれ等があります。

*「兵庫県版ブラックリスト」👉 資料編79頁

侵略的外来種の被害防止対策

- 水稻苗などを食害する貝類の「スクミリンゴガイ」(通称「ジャンボタニシ」)や、在来種等の捕食が問題となっているノネコなどの侵略的外来種について、関係する主体と連携して必要な防除手法の周知・啓発活動などに取り組みます。



スクミリンゴガイの防除技術講習会
(加西市民会館)



コラム 地域における「ジャンボタニシ」駆除の取組事例

- 丹波市市島町では、ジャンボタニシが稲を食い荒らす被害が長年にわたり発生し、早急な駆除対策が必要な状況にありました。また、有機農業を展開していることもあり、県立人と自然の博物館の協力を得て、数年前から農薬に頼らない効率的な駆除手法に取り組んでいます。
- ジャンボタニシが水深のある場所を好む習性を利用して、水田の端に溝を掘っておびき寄せて捕獲する手法などを地域をあげて取り組むことにより一定の成果をあげています。



市島町での駆除作業

「スクミリンゴガイ（ジャンボタニシ）」は、南米原産の淡水に生息する貝で、1980年代に食用として輸入されましたが、養殖業者の廃業などによって放置され、脱走したものが水路や水田で野生化し、今や世界及び日本の「侵略的外来種ワースト100」に選ばれています。

特に柔らかい稲の苗を食べてしまうことから、県では農業者への防除技術指導に努めています。



スクミリンゴガイ(ジャンボタニシ)と卵塊



コラム 神戸市の「外来生物展示センター」について

- 神戸市では、生物多様性に深刻な影響を及ぼす外来生物問題について啓発する展示施設として、2022年に「外来生物展示センター」をオープンしました。外来生物に特化した常設の展示施設は全国の自治体で初めてです。
- 生物飼育棟では、アメリカザリガニやアカミミガメ、ブラックバスなどの生きた個体約30種600匹以上を飼育・展示するほか、外来生物が環境にどのような影響を与えるのかをクイズ形式で紹介するコーナーも設けています。
- 展示ホールでは、アライグマやヌートリアなどのはく製、ヒアリや外来カミキリなどの標本や外来生物による被害の動画・写真などを展示しています。また、専門員が外来生物について分かりやすく解説するなど、外来生物問題について詳しく学ぶことができる施設となっています。
- 毎週土日一般公開(予約制)、親子連れのほか、市内外の学校などからの社会見学なども増えています。

【所在地】神戸市長田区苅藻島町3-12-28苅藻島クリーンセンター内



展示ホールのはく製



アライグマのなめし皮の展示

1 野生鳥獣の被害防止総合対策の推進

「兵庫県鳥獣保護管理事業計画」等に基づき、市町との連携のもと、兵庫県森林動物研究センターの研究成果を活かした「個体数管理」「被害管理」「生息地管理」を総合的・計画的に推進する野生動物の保護管理(ワイルドライフ・マネジメント)に取り組みます。

主 な 施 策

獣種に応じた被害防止対策

シカ対策

捕獲目標を年間46,000頭とし、ICT技術を備えた大型捕獲わなの導入や狩猟期の捕獲報償金制度の活用、生息密度が高く奥地等の捕獲困難地域での県による捕獲等により、捕獲強化に取り組めます。



イノシシ対策

捕獲目標を年間25,000頭とし、被害集落への効率的・効果的な捕獲技術の指導や狩猟期の捕獲報償金制度の活用等のほか、市街地周辺では、イノシシ緊急対策協力員の配備や加害個体の捕獲、わなの見回り活動の経費支援により、捕獲強化に取り組めます。



ニホンザル対策

群れごとの生息状況に応じた適切な個体数管理や、サルが登りにくい防護柵の整備、サル監視員による追い払いなどを進めます。



ツキノワグマ対策

近畿北部・東中国ツキノワグマ広域保護管理協議会において策定した広域保護管理指針に基づき、地域個体群ごとの適正な個体数管理を進めるとともに、集落内の放任果樹などの誘引物除去等により、集落への出没や人身事故発生の防止対策を進めます。



カワウ対策

被害河川における銃器捕獲など被害軽減に向けた取組を進め、魚類の食害や樹木の立ち枯れなどの対策を進めます。



集落での被害防止対策

- 専門知識と現場経験を備えた民間事業者を集落へ派遣し、被害対策のカルテ化・処方箋作成を行うほか、処方箋に基づく集落や農家自らによる被害対策と捕獲対策の実践を支援するとともに、GISの活用等による捕獲の効率化を進めます。



捕獲指導

狩猟者の確保・育成

- 狩猟への関心を高める体験会や狩猟免許試験講習会のほか、狩猟初心者講習会等の開催支援により、狩猟者の確保を図ります。また、有害捕獲のリーダーや担い手の育成研修、熟練狩猟者による銃猟のマンツーマン指導などにより、狩猟者の育成に取り組めます。
- 「兵庫県立総合射撃場」の活用
「兵庫県立総合射撃場」を狩猟人材育成の拠点として活用し、高い捕獲技術や知識を持つ人材を養成します。



コラム

シカの食害による下層植生・草原植生の荒廃と地域における希少植生の保護

- 近年、シカの食害により深刻な悪影響が生じています。シカが増えた主な要因は、里地里山の手入れ不足や、狩猟者の高齢化等による捕獲圧の低下など、第2の危機「自然に対する働きかけの縮小による危機」によるほか、温暖化により雪に弱いシカの越冬が容易になるなど第4の危機「気候変動など地球環境の変化による危機」が影響しています。
- シカが森林の下草や樹木の若芽・樹皮を食害すると、植物の成長が阻害される上、良好な土壌も失われ、土砂災害の危険性が高まるなど、森林環境が衰退します。草原でも、シカの食害により、下層植生や希少な植物、それらの植物を餌としている生物が減少します。さらに、シカが食べない植物だけが増えるなどして、生態系のバランスが崩れ、生物多様性が大きく損なわれるため、シカ対策は喫緊の課題です。

県では、地元市町や森林動物研究センター、猟友会などと連携して、農林業被害の軽減に向けて捕獲強化に取り組んでいます。

また、地元自治体独自の取組として、例えば、森林が市域の約80%を占める豊岡市では、10年以上前から「ノアの方舟作戦」として、希少な植生やチョウ類などの食草をシカから保護するための防護柵を設置して植生保護に努めています。(市内9箇所、約1万㎡)



シカの食害により下層植生が衰退した森林



保護柵

ノアの方舟作戦における保護柵の内外の比較(写真左側は植生が回復)



コラム

カワウ対策について

- カワウは魚食性の鳥で、巧みに潜水して魚などを捕食し、1羽につき1日あたり500gのエサを食べると推定されており、エサになる魚を求めて集団で季節的移動をすることが知られています。
- 近年、水域の水質改善や人為的な攪乱によるカワウのねぐら・コロニー(繁殖を行う場所)の拡大などにより個体数が増加傾向にある中、アユなどに対する水産業被害が顕在化するようになりました。また、カワウのコロニー付近では、悪臭による生活被害や、ため池の水質悪化、さらにはふん尿による樹木の枯死による景観破壊・倒木被害、生態系への被害などを引き起こしています。
- このため、カワウと人々の生活との間の軋轢の解消をめざして、被害防除対策、個体群管理、生息環境管理を計画的に実施するため、「カワウ管理計画(2024-2026年度)」を策定し、銃器捕獲による個体数調整や、ねぐらとなる樹木の伐採などの取組を進めています。
- カワウは、冬季には府県を越えて長距離移動することが知られており、関西広域連合とも連携して対策を進めています。



カワウの誘引狙撃に使用するデコイ(おとり)



カワウのコロニー



コラム

兵庫県立総合射撃場（愛称：ハンターズ フィールド 三木）の活用

- 兵庫県では、近年の野生生物の生息範囲の拡大、狩猟者（捕獲者）の高齢化等を原因とする捕獲圧の低下により、地域によっては生息数や被害が拡大する中、①狩猟者（捕獲者）の捕獲技術（銃、わな）の向上、②狩猟者（捕獲者）の法令や安全対策の知識の習得、③狩猟（捕獲）体験や情報発信を通じた狩猟者（捕獲者）の確保対策の拠点として、兵庫県立総合射撃場を2024年度に設置しました。
- 多様な銃種・射撃タイプに対応した射撃練習場とわな猟の練習場を備えた全国初の施設であるとともに、環境省の射撃場に係る鉛対策ガイドラインに準拠した新設としては全国初の施設となります。
- 県立総合射撃場では、移動する標的を散弾銃で射撃するクレー射撃（トラップ・スキート）、10m・30m・50m・100m先の標的をライフル銃や空気銃で射撃する標的射撃が可能で、また、銃の所持許可の必要がないビームライフル射撃も可能なほか、わな猟や銃猟、ジビエの処理加工の研修等も実施しており、狩猟に興味のある方や農林業被害でお困りの方にもご利用いただける施設です。

兵庫県立総合射撃場 ～ ハンターズ フィールド 三木 ～（2024. 6. 1開場）

所在地 三木市吉川町福井
営業時間 夏期（4～9月）9:30～17:00、冬期（10～3月）9:30～16:00
※月曜日（祝休日の場合は翌日）、年末年始は休業

兵庫県立総合射撃場全体位置図



ライフル射場



管理棟（外観）



スラッグ射場



エアライフル射場



トラップ射場



管理棟（内観）



射撃場ホームページ

2 人と野生動物との共存の推進

バッファゾーン(人と野生動物の棲み分けを図るための緩衝帯)の設置や野生動物の生息環境改善のための広葉樹の植栽などを通じて、野生動物の生息地保全とともに農林業被害を防ぎます。また、ツキノワグマの適切な個体数管理を行うとともに、シカ肉などのジビエの普及を通じて、地域の資源循環を図ります。

主 な 施 策

県民緑税を活用した野生動物との共生林の整備

- 野生動物による農作物被害等が甚大な地域を対象に、人との棲み分けを図るバッファゾーンの設置と集落防護柵の一体的な整備を促進します。また、周辺森林の野生動物生息環境を改善するため、広葉樹林の整備や植生保全を図る植生保護柵の設置などを進めます。



バッファゾーンの整備(相生市)



植生保護柵の設置(宍粟市)



集落周辺ゾーンで捕獲されたクマ(豊岡市)

ツキノワグマの個体数管理

- 健全なクマの推定生息数を維持しながら、精神被害や人身被害、農林業被害など人間との軋轢を軽減し、クマと人間の棲み分けを図るため、集落や集落周辺・クマの生息ゾーンごとに適切な管理を行うとともに、地域個体群ごとの推定生息数に応じた狩猟や有害捕獲の実施の有無等により、個体数管理を行います。

ひょうごジビエの利用促進(シカ丸ごと1頭活用大作戦)

- 捕獲したシカを食用やペットフードなどの地域資源として有効に活用するため、市町・猟友会等と連携して、処理加工施設等の整備、捕獲個体の搬入・回収支援などに加え、ひょうごジビエの日(毎月6日、16日及び第4火曜日)の普及啓発等により、シカ肉等の給食・学食への導入を含めた幅広い需要拡大を図ります。

第4回ひょうごジビエコンテスト最優秀作品「鹿のサルサ トルティーヤチップ添え」(左)
学校給食(鹿のデミグラスシチュー)(右)

